

# 令和4年度病害虫発生予察指導情報（ラッキョウ白色疫病）

令和5年2月24日  
鳥取県病害虫防除所

## 1 情報の内容

2月22日時点で、県内ラッキョウ栽培ほ場において、ラッキョウ白色疫病の発生が多くなっています（表1）。すでに発生が見られる場合は、薬剤防除を徹底し、未発生ほ場では予防防除を行いましょう。

## 2 情報の根拠

（1）2月22日の現地巡回における調査結果は、表1のとおり。

表1 県内産地のラッキョウ白色疫病の発生状況(令和5年2月22日調査)

| 調査地区 | 本年調査結果 |          |      | 平年値(2013～2022年の平均値) |          |         |
|------|--------|----------|------|---------------------|----------|---------|
|      | 調査地点数  | 発生ほ場率(%) | 発病株率 | 調査地点数               | 発生ほ場率(%) | 発病株率(%) |
| 東部   | 10     | 100%     | 6.3  | 5                   | 67.1%    | 2.2     |
| 中部   | 10     | 40%      | 0.3  | 5                   |          |         |

（2）本病の発生生態と症状

本病は15℃以下の低温多湿で発生しやすく、降雪後の雪解け水や連続降雨により、発病が急速に広がりやすい。下位葉の葉先から発病し、発病部は灰白色および汚灰色の病斑となり、その先が枯死して垂れ下がる（写真1～3）。葉身全体に被害が進展すると、鱗茎へと病勢が進行する。

（3）これまでの気象経過と現在の本病発生状況から、被害が発生する可能性がある。



（写真1 圃場の発病状況）



（左：写真2 発病株）

（右：写真3 発病株）

### 3 防除上注意すべき事項

- (1) 本病発病が見られる場合は、薬剤防除を徹底する（表2）。
- (2) 農薬使用に当たっては、使用基準を遵守するとともに、適正使用、事故防止に努める。

表2 ラッキョウ白色疫病に登録のある薬剤

| 農薬の名称          | 希釈倍数          | 使用時期       | 本剤の使用回数 | 有効成分                   | FRACコード |
|----------------|---------------|------------|---------|------------------------|---------|
| フォリオゴールド       | 1,000 倍       | 収穫 14 日まで  | 3 回以内   | TPN、メタキシム M            | M05、4   |
| カーゼート PZ 水和剤   | 600～<br>800 倍 | 収穫 30 日前まで | 3 回以内   | シメキニル、マンゼブ             | 27、M03  |
| プロポーズ顆粒水和剤     | 1,000 倍       | 収穫 14 日前まで | 3 回以内   | ベンチアバリカルブ イソプロピル、TPN   | 40、M05  |
| ベトファイター顆粒水和剤   | 2,000 倍       | 収穫 14 日前まで | 3 回以内   | シメキニル、ベンチアバリカルブ イソプロピル | 27、40   |
| ホライズンドライフフロアブル | 1,000 倍       | 収穫 21 日前まで | 3 回以内   | シメキニル、ファモキサトニ          | 27、11   |
| ライメイフロアブル      | 2,000 倍       | 収穫 3 日前まで  | 3 回以内   | アミスルプロム                | 21      |
| ランマンフロアブル      | 2,000 倍       | 収穫 3 日前まで  | 4 回以内   | シアゾファミト                | 21      |
| フロンサイド水和剤      | 1,000 倍       | 収穫 14 日前まで | 5 回以内   | フルアジナム                 | 29      |

登録内容は令和5年2月22日現在